

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- ごあいさつ … 2～4
- 客員教授のご紹介／さがっば・ジョーのご紹介 … 4
- ホームページのお知らせ・紹介 … 5
- **特集** 入学式報告 … 6～7
- 学園各部報告 … 8～10
- 同窓会だより … 11
- マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

CAMPUS NEWS

「自由自在」を 取り戻す

学校法人相模女子大学
理事長

風間 誠史



昨年度も、結局コロナ禍の1年になってしまいました。もうそろそろ、と思っていたところへオミクロン株の蔓延で、本学園でも特に幼稚部・小学部が大きな影響を受けました。また、長期にわたるいわゆる自粛生活の影響も、目に見えないものを含め様々なところで出てきているように感じます。私はこれまで「コロナ禍をむしろ前向きに捉えてがんばろう」というようなことを（あえて）言い続けてきたのですが、今は正直に言って、やはりコロナ禍で失われたものは小さくない、今後はそれを取り戻していかなければいけない、と感じています。

コロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵略により、世界はさらなる悪夢のような状況になっています。私どもに何ができるといってはいけませんが、暴力・武力によって他国を侵略することは絶対に許してはいけなし、その前提として、自由と民主主義が人類の叡智の到達点であることをしっかりと意識したいと思います。福沢諭吉は『学問のすすめ』のなかで、人は身などを超えて「自由自在」に生きることができ、そのために「学問」が必要だということを述べています。その「自由自在」を阻害する最悪のものが「戦争」だということを、今あらためて痛感します。学問・教育は平和でなければ十分に行われなし、だからこそ学問・教育の究極の目標は世界の平和です。そんなことは当たり前だと思っていました。決して当たり前ではなく、今もなお常に自覚し、目指していかなければいけない大きな課題なのだということを思い知らされました。

大げさな「プロパガンダ」を掲げるつもりはありませんが、日々の教育活動を通じて、暴力による支配に反対し、誰もが自由に生きることのできる平和な世界の実現を目指していきましょう。

地域とともに発展する 大学・短期大学部へ

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
学長

田畑 雅英



昨年度もまた、コロナ禍への対応に追われた一年でした。感染状況を見ながらオンラインと対面を併用した授業運営を行いました。校外活動やクラブ活動にも時に制限を加えざるを得なかったことは、やむを得ないこととはいえ、たいへん心苦しく思っております。学生の皆様、ご家族ご関係者の皆様のご理解とご協力を賜りましたことにあらためて厚くお礼申し上げます。

本年度は対面授業を大幅に復活する形で春学期を開始しました。キャンパスに大勢の学生たちが戻り、久しぶりに学校らしい活気を取り戻したように思います。やはりこうでなくては、と感じる一方で、感染症の動向は予断を許さず、いつかまた制限を強めなくてはならないとも危惧します。これからも何より学生の皆様の安全を図ることを第一としながら、できる限り充実した大学・短期大学部時代を過ごしていただけるよう努力して参りますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

本学の正門を入ってすぐ右手に、茜館と呼称している建物があります。本学の場所が旧陸軍の通信学校だった時代には将校集会所だった建築物で、その構えはまさに歴史を感じさせますが、残念ながら現在では老朽化が進み、建物をそのままの形で維持することは困難な状況です。しかし、何らかの形でその面影を将来に伝えたいという意見も強く、検討が行われているところです。

本学が現在の地に移転してから75年以上の間、本学の発展を見つめ続けてきた茜館が象徴するように、「相模女子大学」としての本学の歴史は、この相模原の歴史とともにありました。茜館だけでなく、本学にはその歴史と時間を語り継ぐ遺構や痕跡があちこちに残されています。3年後に創立125周年を迎えるにあたって、いま一度そのことに思いを致し、あらためて地域とともに発展していく大学・短期大学部をめざしたいと思えます。本学が真に地域の文化的・社会的な交流の場となるよう努めて参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いたします。

2022年度を 迎えて

中学部・高等部
校長
武石 輝久



中学部・高等部は4月6日（水）入学式を挙行了しました。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を万全に期し、午前（高等部）、午後（中学部）に分けて実施、中学部85名、高等部399名の新入生は胸を張って新たなスタートを切りました。

申し遅れましたが、私は原野聡美先生の後任として、中学部・高等部校長に就任しました武石輝久と申します。大学を卒業後イギリスでの留学期間を経て、都内の高校、中学で勤務したのち、平成元年ここ相模女子にやってきました。

さて、この4月より明治時代から今日まで約140年間続いていた日本での成年年齢20歳が、民法改正により18歳に変わりました。海外では、1960年代に諸外国に先駆けイギリスで成人年齢18歳が始まり、今ではOECD38の加盟国のうち、州によって定められているアメリカ、カナダを除くほとんどの国が成人年齢を18歳と定めているようです。私は高等部入学式で、「成年と未成年の違いは何だと思えますか」と、新入生に問いました。生徒それぞれがこの正解のない問いに答えを出してほしいと思いますが、私は「探究心」と「セルフアセスメント（自己評価）」が大切だと伝えました。人が生きる上で本当に大切なことには、正解がひとつに定まらないことがほとんどであり、自立した大人とは、その課題に対し自らの答えを見つけてくれる人で、その力こそが高等学校の学習指導要領の大きな概念のひとつ「探究」です。中・高等部では、自ら課題を発見し、その課題に対して自分の考えを持ちつつ、異なる意見を踏まえて議論を交わしながら新たな価値観を見出し、行動していく教育をさらに目指していきます。また「セルフアセスメント」は、他人がどのように評価しようが、結局一番大切なのは自分自身の評価、これはまさに自分の学び・成長に自分自身が責任を持つことで、高等部卒業時にはこの力がしっかりと身につけていることがひとつのゴールだと話しました。

私自身、中・高等部で33年間勤めてきた強みと弱みをしっかりと認識、まさにセルフアセスメントし、中・高等部でこれまで培ってきた教育を損ねることなく、その上で新しいものに躊躇なく挑んでいく姿勢を大切に、校長としての重責を果たしていく所存です。今までと変わらぬ皆様からのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2022年度の スタートにあたって

小学部
校長
川原田 康文



新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響が学校の活動に始めてから既に2年が経過しました。2021年度も臨時休校に伴い、オンライン授業をすることもありましたが、常に教職員が話し合い、子どもたちのためにできることをできる形で行おうと、取り組んでまいりました。今年度は4月11日（月）に入学式を行い、68名の1年生を迎え、全校児童数は男子188名、女子256名、計444名で2022年度をスタートしました。

小学部では、時代の変化を先読みし、様々な新しいことに取り組んできました。小学部のめざす子ども像「自分からできる子」とし、その育成に向けて、これからの子どもたちに身につけていきたい力を盛り込んだ特色ある教育課程の検討を進めてきました。

その中でも英語力とグローバル意識、ICT機器を使う力、プログラミング的思考の育成、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成などの教育活動に取り組んできました。新たに2020年度から「探究の学習」を始めました。この学習は、これまでの小学部の教育で身につけてきた価値観や学習を生かして、自分の興味・関心に基づいたことを探究する学習です。主体的に課題を設定し、情報の収集や整理・分析をしてまとめる能力の育成です。「探究の時間」は、これからの子どもたちに必要な特に強化すべき力をつけるための学習であり、小学部の新たな魅力の一つとなっています。そして、それらの学習を全ての教科の学習と繋げることで学習のSTEAM化が促進されると考えます。

常に子どもたちの未来を考え、笑顔を大切に、教職員が「One Team」となり、毎日の積み重ねを大切にしながら愛情と情熱を持って教育活動に邁進してまいります。今年度も保護者の皆様の暖かいご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

次の100年に向けて

認定こども園 幼稚園部
園長
角田 雅昭



本年4月より認定こども園相模女子大学幼稚園部園長を務めることとなりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

幼稚園部は、明治39年（1906年）に開設された日本女学校附属幼稚園を起源としております。相模女子大学の前身となる日本女学校が、東京市本郷区龍岡町（現在の文京区湯島4丁目）に設立された3年後のことでした。そこから数えますと、本園は110年を優に超える歴史を有しております。その後、昭和25年（1950年）には、現在の地で相模女子大学附属幼稚園として開園いたしました。市制施行される前だったため、相模原市は、まだ相模原町と呼ばれていた頃のことです。当時、町で初めての幼稚園として、期待されていた開園だったそうです。時が進み、平成28年（2016年）には、地域のニーズに応える形で、認定こども園へ移行し、現在は0歳から小学校入学前の子どもたちが笑顔で一緒に過ごしております。

本園は、誕生したときから大学併設の特徴を活かして、幼児教育や保育の先駆的な実践を取り入れつつ、地域とともに歩んで参りました。しかし昨年度は新型コロナウイルス感染症の対策に追われ、いつも通りの教育・保育の維持さえも難しく、試行錯誤を重ねることとなりました。それでも、子どもたちや保護者の皆様のご協力、ならびに地域関係者のご支援、さらにスタッフの努力もあって、園運営を維持することができました。関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

今回の事態によって、私たちは人と人との「かかわり」が、欠かせないことを痛感いたしました。とくに幼い子どもたちの成長には、養育者だけでなく、たくさんの人々との「かかわり」を必要とします。それゆえ、子どもたちの成長をたくさんの人と一緒に喜べるようにすること、このことが私たちの園の使命であると思っております。地域の人々との「つながり」をさらに広げ、100年後も子どもたちの笑顔があふれる園であるように努めます。

客員教授のご紹介

本学では、各界の第一線で活躍される方を客員教授としてお招きしています。授業・講演会を実施し、多くの学生や一般の方々が受講しています。2022年度より新たに2名の客員教授が着任されましたので、ご紹介いたします。

金子 修介

映画監督。『ガメラ 大怪獣空中決戦』でブルーリボン賞監督賞受賞のほか、『毎日が夏休み』『デスノート』『百年の時計』『こいのわ 婚活クルージング』など監督作多数。『おそろし』などのドラマ演出や著述でも活躍。

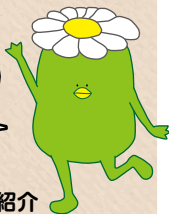


ピーター・J・マクミラン

翻訳家・詩人。2008年『百人一首』を英訳し、同年、Donald・キーン日本文化センター日本文学翻訳特別賞等を受賞。『伊勢物語』、『万葉集』など多くの古典翻訳を手がけ、2019年には『英語版百人一首かるた』を制作。



みんなと
会いたい
がっば!!



相模女子大学
学園キャラクターのご紹介

さがっば・ジョー

相模女子大学の学園キャラクターの「さがっば・ジョー」。学生から発案されたキャラクター。

ジョーは、フランス庭園の池に住みついている精で、学園を見守っている伝説の生き物。学園のみんなに知ってもらえたらうれしいです!

ジョーの Twitter と
Instagram があるがっば!



さがっば・ジョー
Twitter @SagamiCharacter



さがっば・ジョー
Instagram Joe_sagappa



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブ様の登録商標です

さがみアカデミー ホームページリニューアルのお知らせ



2022年3月より、生涯学修講座「さがみアカデミー」のホームページをリニューアルしました。事務局からのお知らせや、各講座への申込画面など、これまでよりも一段と見やすく改善しました。また、4月より「小田急またび」と連携したことによりクレジットカード決済ができるようになりました。今年度は感染症対策を行いながら対面講座も開講しますので、ぜひこの機会にご覧いただき、ご参加ください。

「さがみアカデミーホームページ」
はこちら



●さがみアカデミー春季講座 申込可能講座一覧

- | | | |
|-------------|---|----------|
| 【学長による特別講座】 | プッチーニのオペラ入門 | 講師：田畑 雅英 |
| | 8月2日火曜日 10:00～11:30 定員：60名 受講料：無料 申込締切：7月26日（火） | |
| 【講座 1】 | 能楽入門「黒塚白頭」～第34回 相模原新能事前講座～ | 講師：藪 克徳 |
| | 曜日・時間：月曜日・13:30～15:00 定員：60名 受講料：4,500円 申込締切：6月13日（月） | |
| 【講座 2】 | プッチーニのオペラを読み解く『トスカ』『蝶々夫人』『トゥーランドット』 | 講師：田畑 雅英 |
| | 曜日・時間：火曜日・10:00～11:30 定員：60名 受講料：4,500円 申込締切：8月9日（火） | |
| 【講座 9】 | コロナ・パンデミックと私たちの明日 | 講師：宮崎 昭 |
| | 曜日・時間：木曜日・10:30～12:00 定員：60名 受講料：4,500円 申込締切：6月30日（木） | |
| 【講座 11】 | テレビ東京のビジネス戦略に観る6つの＜発想法＞ | 講師：田淵 俊彦 |
| | 曜日・時間：水曜日・13:00～14:30 定員：60名 受講料：9,000円 申込締切：6月8日（水） | |



学長 田畑 雅英

特別講座、
講座2を
担当します。

相模女子大学・相模女子大学短期大学部

後援会ホームページ リニューアルのお知らせ



日頃より後援会活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度、情報発信・交流の促進ツールとして後援会ホームページをリニューアルしました。

教育懇談会、就職懇談会などの報告や、連絡事項などを発信して参ります。

ぜひ、ご活用ください。



後援会 HP はこちら

夢をかなえるセンター特設サイトの紹介

学生による学生のための正課外活動情報サイト 「夢をかなえるセンター特設サイト」を運営しています！

夢をかなえるセンターでは、正課外活動に関する情報を掲載している「夢をかなえるセンター特設サイト」を運営しています。このサイトは、学生が参加している社会貢献活動や国際教育をはじめとする正課外活動「Sagami チャレンジプログラム」の紹介や、プログラムへの参加に必要な情報をまとめて掲載することで、学生の皆さんにより積極的に活動へ参加いただき、そしてその成果を多くの方にご覧いただくことを目的として2020年度にオープンしました。サイトの運営には、同じく2020年度に発足した学生プロジェクト団体「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」の学生を中心に、様々な地域と連携するプロジェクト学生が携わっています。

夢をかなえるセンターは「キャリア形成支援ポリシー」に則り、正課外活動における学生のキャリア形成を支援しています。ぜひ特設サイト内の「Sagami チャレンジプログラム」および「Sagami チャレンジプログラムシラバス」をどうぞご覧ください。



「夢をかなえるセンター特設サイト」
はこちら

特集

2022年度 入学式

大学院・大学・短期大学部 入学式

4月7日（木）、相模女子大学グリーンホールにおいて、相模女子大学大学院・相模女子大学・相模女子大学短期大学部の入学式を挙行了しました。

午前の部では、栄養科学研究科、栄養科学部・人間社会学部、短期大学部の新入生が、午後の部では、社会起業研究科、学芸学部の新入生が、晴れの日を迎え



式典の様子

田畑雅英学長挨拶



ました。

コロナ禍のため、式典は、新入生と教職員のみ参加とし、例年よりも短いプログラムで進行されました。田畑雅英学長より「新入生を迎えることば」が述べられ、風間誠史理事長、田中百子同窓会（翠葉会）会長より「お祝いのことば」が式次第に添えられました。新入生代表による宣誓では、これからの大学生活への決意をしっかりと述べる姿に頼もしさが感じられました。

式典終了後には、新入生歓迎プログラムとして、アカデミックガウンの紹介が行われた後、夢をかなえるセンターの活動が紹介され、学生と職員の協働による「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」より、様々な社会貢献活動や国際教育活動等を通して学んだことが紹介され、新入生応援メッセージが贈られました。最後に、クラブ活動の学生等による新入生を歓迎する動画が紹介され、特別ゲストとして、学園キャラクター「さがつば・ジョー」もお祝いに駆けつけ、会場を大いに盛り上げました。

（学事企画課）



学園キャラクター「さがつば・ジョー」



「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」による活動紹介



アカデミックガウンの紹介



新入生代表による宣誓

高等部 入学式

高等部入学式は、4月6日（水）の午前10時に開式が宣言されました。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から在校生の参列はなく、保護者も各家庭1名に制限する中での開催でしたが、11クラス・399名を迎えての入学式は壮観でした。全体として簡素化を図りながらも、よりよい入学式となるようプログラムを見直し、生徒の入退場は共に行うように変更しました。新入生の、爽やかで凛々しい姿が印象に残る入学式でした。

（近藤）



式典にて

中学部 入学式

春の訪れが例年より早く感じられ、桜も咲き急いでしまふのかと心配しておりましたが、学園をピンクに染めたまま、新入生の入学を待っていてくれました。

新しい環境、新しい出会いの中には、時に壁となる困難や摩擦が立ちはだかることもあり、前に踏み出すことに不安も感じることもあります。しかし、それらを乗り越えることも「高潔善美」に繋がる一歩です。どんなに小さな一歩でも、それによって生じる変化は成長でもあります。明日の自分に期待するような気持ちで、一緒に前に進んでいきましょう。

(安田)



学活の様子

小学部 入学式

4月11日(月)、お天気にも恵まれ、色とりどりの春の草花が咲きそろう中、第72回入学式が行われ、68名(男子32名、女子36名)の1年生が小学部に仲間入りしました。今年度は、感染症対策として、6年生と1年生の兄弟関係の児童のみが参列しました。いよいよ、入学式が始まり、歓迎の拍手の中、6年



校長先生と Pepper の挨拶



1年生を迎える6年生



元気よく返事する1年生



6年生にエスコートされて入場する1年生

生にエスコートされ、5年生がプレゼントとして作った色とりどりのネクタイをつけた1年生が喜びと期待に胸を膨らませて入場してきました。一人一人、担任の先生から名前を呼ばれ、「はい」と元気に返事をする事ができました。校長先生のお話では、ロボットの Pepper とのかけ合いの中でお話が進み、1年生も笑顔で聞いていました。6年生による「歓迎の言葉」の中では、バニラソングが紹介され、参列している在校生が振り付けを披露し、1年生も一緒に振り付けを楽しみました。

(小勝)

幼稚部 入園式

桜の花が咲き、温かな日差しが窓から差し込む中、幼稚部に新たな園児が入園しました。

4月1日(金)には0・3歳児の2・3号認定の園児、4月11日(月)には3歳児の1号認定の園児が集まり、入園式を行いました。

今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策に伴い、内容を縮小した式となりました。

開式直後は園児も保護者も期待と不安の入り混じった表情をしていましたが、担任が園児の名前を呼んだり、歌に合わせて蝶をヒラヒラさせたり、ぬいぐるみが「おめでとう」のメッセージプレートを掲げたりすると、会場が笑顔で溢れました。幼稚部職員一同の「おめでとう!みんなが入園するのを待っていたよ」の気持ち伝わった、とても嬉しい瞬間でした。

幼稚部は学園併設の園として、その特色を最大限に活かした保育に取り組んでいます。園児にとって実り多き日々になるよう尽力していこうと、改めて決意した日となりました。

まだまだ新型コロナウイルス感染症による様々な影響がある中、園児・保護者そして職員が心地よさを感じられるような幼稚部でありたい、そうなるように頑張っていきたいと思っています。

(井原)



ちょうちよが遊びにきたよ



満開の園庭の桜の木

学園各部 報告

学園

第11回さがみ発想コンテスト

今年で第11回目となる「さがみ発想コンテスト」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、昨年度に引き続きオンラインでの開催となりました。

今回は、総合学園である本学が、様々な年代がつながる学園として、また、卒業生や地域の方ともつながることのできる場として、こんなキャンパスであつたらいいなという夢や要望を募集し、コロナ禍で色々な制限がある中、昨年度を上回る24件のプレゼンテーション動画による応募をいただきました。本学関係者での第一次審査後、学生と教職員による採点の結果をふまえて最終審査を行ない、グランプリをはじめとする各賞を決定しました。

グランプリには、英語文化コミュニケーション3年(受賞当時)中村若葉さんの「コンテナハウスを利用した『サガジョテラス』」が選ばれ、学園の現状の問題



表彰式の様子

点と、さまざまな「つながり」のパターンと可能性をしっかりとふまえたうえで、その解決・実現策としてのカフェ「サガジョテラス」を開発しようというもので、提案内容そのものの魅力だけでなく、テーマの把握と提案の一貫性もたいへん優れていたことが高く評価されました。

(学事企画課)

大学院・大学・短期大学部

日本語日本文学科 第47回卒業制作展を開催しました

1月18日(月)～29日(土)、本学7号館1階ホールにて第47回日本語日本文学科卒業制作展(併催書道ゼミ3学年書作展)を開催しました。

原寸(拡大)臨書2点、創作(漢字仮名交じりの書)1点、共同制作の4点を基本とし、8尺×12尺の大作から半紙サイズの小品、美しい料紙に書いた作品など、計24点を出品しました。

ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。

なお、今回の卒業制作展は、2022年2月5日発行の『美術新聞』第5面に写真入りで紹介されました。(下田)



卒業制作展の様子(臨書と創作)



書道ゼミ3年書作展



卒業制作(かなの全臨)

生活デザイン学科 2021年度卒業制作展を開催しました

生活デザイン学科では、今年度の卒業制作展を2月1日(火)～6日(日)の会期で本学キャンパス内にて開催しました。

会場を、夢をかなえるセンターガーデンホール・6号館・8号館と3箇所に分け、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を徹底した上で実施し、本学科の特色である領域横断による学びが結実した、まさに集大成となる作品が並びました。

学生による卒業制作委員会が中心となり、ポスターなどのヴィジュアルデザイン、会場レイアウト、SNSなど全員が協力して運営に携わりました。

コロナ禍ではありますが、会期中には多くの方にお越しいただきました。そして、今年も多く多くの卒業生が卒業制作展を訪れてくれました。これは、本学が力を入れている「卒業生とのつながり」という観点からも大変意義のあるものとなっていると思います。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。(牛尾)



ガーデンホールでの展示



6号館での展示風景

インクルーシブ・プログラム開発事業 2021成果報告会を実施しました

本学では、2021年度より相模原市との連携・協働により発達障害や知的障害のある若者を対象としたインクルーシブな生涯学習プログラムの開発を行っています。

2月12日(土)に開催された成果報告会「ともに学べる共生社会を、相模原から」では、当事者、学生、支援者、行政関係者などさまざまな視点から、1年間の取り組みの成果を報告し、当事者が主体となつて地域に働きかけ、交流や仲間づくりを推進するための持続可能な支援のあり方について活発な意見交換がなされました。

1年間の取り組みをまとめた成果報告書や動画を大学HPに公開していますので、二次元コードよりぜひご覧ください。



成果報告書・動画はこちら



報告会の様子②



報告会の様子③



報告会の様子①

(生涯学修支援課)

長野県生坂村特産品のパッケージに本学学生考案のラベルデザインが採用されました

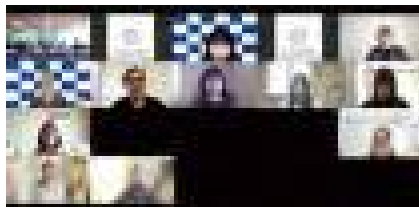
2022年3月に、本学と生坂村のオンライン地域協働活動「特産品のパッケージラベルデザインコンテスト」を開催し、本学学生によって考案された3作品が実際の商品ラベルデザインとして採用されました。

このデザインコンテストは、コロナ禍によるテイクアウト需要の高まりを受け、更なる地域食材の消費拡大を図る取り組みとして、生坂村役場と村営やまなみ荘、本学の3者が連携し、村営やまなみ荘における地元名物料理のテイクアウト用パッケージのラベルデザインを、本学大学生と短期大学部生を対象に募集し、優秀作品の表彰を行いました。

募集に先立って開催したオンライン応募説明会では、生坂村役場振興課や村営やまなみ荘の方々から生坂村の魅力や取り組みの趣旨、募集デザインのコンセプト等をお話いただきました。現地でのフィールドワーク学習が難しい中、参加した学生らは、説明会で伺ったお話や自主学習でデザインのイメージを膨らませました。

コンテストには、創意工夫を凝らした35作品ものデザインが集まり、うち3作品の受賞が決定しました。

3月23日(水)に行われたオンライン表彰式では、藤澤泰彦村長、牛越宏通副村長をはじめとする方々に



オンライン表彰式の様子

ご出席いただき、受賞作品の講評や応募作品に対する全体フィードバック等についてお話いただきました。本学からは、社会連携推進委員会委員長の湧口清隆教授をはじめ、生活デザイン学科の堀内恭司教授、メディア情報学科の塚本千晶准教授、夢をかなえるセンタ―部長が出席しました。

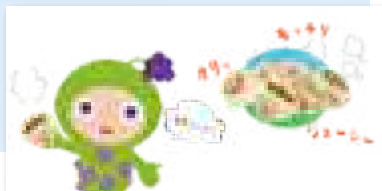
学生デザインラベルが貼られた商品は、4月下旬より長野県松本市のスーパーや移動販売等にて販売されています。(連携教育推進課)

受賞作品

◆焼き餃子
メディア情報学科
2年生(当時)考案



◆灰焼きおやき
生活デザイン学科
1年生(当時)考案



◆川魚唐揚げ
社会マネジメント学科
3年生(当時)考案



中学部・高等部

太陽のかがやきをお届け！ ポンパドウルコラボパン販売

私は食べることが大好きで、その中でもパンは大好物です。夏休みに、ポンパドウルとサガジヨコラボのレシピ考案の募集を見つけました。パン屋さんを巡ったり、図書館で資料を探しながら、私が食べたいパンを考えました。

チョコとオレンジのパンに太陽に見立てた輪切りのオレンジをのせ、「太陽のかがやきパン」と名付けました。

多くのお客さんが手に取ってくれる様子に興奮しました。

食べてくれた皆さん、ポンパドウルの方々、ありがとうございました。

(高等部2年 鈴木陽)



太陽がいっぱい！眩しいです！ チョコとオレンジの相性抜群です

第3回バトントワリングジュニア選手権大会

3月27日(日)、第3回バトントワリングジュニア選手権大会(於…大阪・丸善インテックアリーナ)が行われ、中学部1年小原沙羅さんが2種目に出場し、入賞しました。小原さんにとって全日本選手権に出場するのは今回が2度目。初めて出場した前回大会は納得のいく演技ができずに終わってしまいました。この1年間、技術はもちろんのこと、集中力を鍛

えることを大切に練習に向き合いました。怪我に苦しみながら迎えた今大会。「楽しんでます！」という言葉の通り、華やかで安定感のある演技を披露し、ソロトワール第6位、ソロストラット第8位という素晴らしい結果を頂くことができました。

(高等部・對馬)



2種目で決勝に残りました！！

コロナ禍での合宿・大会でも大健闘！

この2年間は、コロナ禍での合宿・大会開催となり、宿泊・食事会場では細心の注意を払いながらの活動となりました。

その状況の中で1月に行われた第49回神奈川県高等学校スキー大会と3月に行われた第38回神奈川県高等学校スキー新人大会において健闘し、女子総合第2位と女子総合優勝をすることが出来ました。また今年もインターハイへ2名の生徒が出場し、5年連続20回目の出場を果たしました。これからもこの伝統と歴史を誇りに、全員が仲良く、それぞれが輝けるような部活動を目指し、神奈川県内で数少ない女子校スキー部を大切にしていきたいです。

(高等部・齊藤)



横手山山頂 クランペットにて



雲海を望みながら

小学部

第66回卒業式

6年間の成長を実感しました。

3月15日(火)は、第66回卒業式でした。71名の6年生が立派に卒業していききました。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から5年生のみが式に参加しましたが、式に参加できない1年生・3年生は、6年生のために花道を作って見送りました。また、4年生は体育館に向かう6年生に対して、校庭からリコーダーの演奏をして、門出を祝いました。

卒業式の中では、在校生の「6年生に贈る言葉」の映像を流すことで、思いを伝える形をとりました。6年生は、自分たちの頑張りを実感できたのではないかと思います。6年生の門出の言葉も、一人一人がマイクに向かって話す形をとりました。思い出や決意を語る6年生の姿に6年間の成長を感じることができました。

式が終盤に差し掛かると6年生も5年生も、そして、教員も涙が止まらなくなりました。旅立っていく6年生の姿に、寂しさを感じると共に、中学に向けて頑張っ
てほしいという思いが膨らみました。心に残る卒業式にすることができたのではないかと思います。
(澄井)



卒業証書授与



在校生の花道を通って卒業式へ



4年生の演奏の中を体育館に向かう



卒業証書を胸に

自分の知りたいことをとことん調べる
小学部の「探究」の時間

小学部の「探究」の学習は、今年で2年目となります。「探究」は、毎週1時間、4年生以上が一人一人の興味関心に基づいて、テーマを決めて、調べたり、実験したり、専門家に質問したりしながら、学習を深める活動です。3学期は探究の発表会が行われました。

6年生は、昨年の経験もあり、しっかりとした発表を行うことができました。例えば「カエルは毎日エサをあげるだけで人間になつくのか」といったテーマで2種類のカエルに毎日餌をあげ続けて変化を見たり、「どのように貝が水槽の汚れを掃除しているのか」といったテーマで実際に汚れた水をきれいにさせてアサリの体の仕組みを観察したりと、ユニークな探究活動が数多くありました。
まだ「探究」の指導のあり方には、改善

していく必要はありますが、児童の発表と、児童の熱心に探究活動を進めている姿に教育的意義を感じることができました。
(澄井)



探究発表をする6年生



上級生の発表を熱心に聞く下級生

認定こども園 幼稚園

第72回(認定こども園第6回)卒園式

3月12日(土)に卒園式が行われました。新型コロナウイルス感染症の蔓延により臨時休園措置をとることもあった3学期で、卒園式開催も危ぶまれましたが、天候にも恵まれ無事に行うことができました。今年はこのこども園が開園した年に0歳児で入園した子どもたちが6年間の幼稚園生活を経て卒園を迎えた記念すべき卒園式でした。式典では、名前が呼ばれると返事をしたり、園長先生の話真剣に耳を傾けたりと成長した子どもたちの姿がみられ、感動多きひとときとなりました。年長組の子どもたちは幼稚園で沢山の友だちや保育者・教員に出会い、様々な遊びを経験したこと
で、心も身体も豊かに育ち、小学校へと

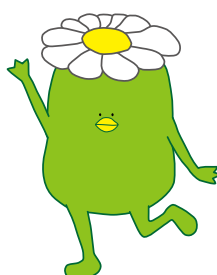


園長先生の話真剣な子ども達



大好きな先生との時間

羽ばたいていきました。小学校で活躍していく子どもたちの未来を、教員一同これからも応援しています。
(小板)





自分を信じて

丸山 裕子

株式会社エヌ・ピー・シー代表取締役社長

(平成2年 学芸学部国文学科卒)



37年前高校生だった私はあの銀杏並木を見て「理想のキャンパス!!」と思い、通っている自分を夢見て受験勉強に取り組みました。国文科があったこと、そして歴史ある校舎も大変魅力で、志望理由のひとつとなっています。

短大進学も選択肢にありましたが、私はこれといった強い夢も無く短大2年間で職業が決められるか自信がありませんでした。子供のころから好きだった読書で更に学びたいと、学芸学部国文科に進んだのは自然な流れでした。

家庭環境から、大学へ進学するのは学費及び教科書代は自分で負担する事が親からの必須条件でした。日本育英会・相模女子の2つの奨学金で学費を、アルバイト代で教科書その他学生生活に関わる全ての費用を充てました。自分の稼いだお金を使うだけに、教科書も文房具も大切に使いました。奨学金は卒業後返納しなくてははいけません。授業を受けるのも自主休校するのも(笑)全て自分のお金で捻出していると思ったら、真剣に学ぶのは勿論ですが、友達との時間もより大切に過ごすことが出来ました。

大学時代は、個性的な先生方の講義に夢中になったり、睡魔に勝てなかったり、友達とのランチやお茶を学食や校舎でしたり、図書館に通ったり、学校帰りにおしゃべりしたりと、今思い出すとどれも楽しい思い出ばかりです。当時仲が良かった友達と今ではSNSでグループを作り、何かあれば報告合っています。集まれば大学時代に一瞬で戻れる、そんな一生の友達が出来た特別な4年間でした。

在学中は教職と司書を取得する予定でしたが、授業の難しさやアルバイ

トが原因で、司書は断念しました。母校の中学校で2週間教育実習が出来、本当に貴重な体験をしました。教師に進む道も考えましたが、空きは無く悩んでいたところ、偶然目にした就職掲示板に紀伊國屋書店の新卒募集要項をみつけた時「ここで働く!!」と直感しました。国文科ということもあり、新宿本店には文献を探しに何度か訪れていました。他の書店には無くても、新宿本店には必ずあり、歴史ある建物や重厚な書棚から、自分だけの1冊に出会えそうな雰囲気にもいつもワクワクしていました。

その後無事念願が叶い紀伊國屋書店に入社、32年間多くの店舗を経験し、思い入れの強い新宿本店でコンシェルジュや副店長を経験させて頂きました。一昨年9月からは子会社の株式会社エヌ・ピー・シーの代表取締役社長を務めています。

主な業務内容は文具・雑貨・カレンダーの国内外卸や小売り及びオリジナル商品の制作などです。書籍と同じくらい文房具も好きだったので、好きな商材を扱える幸せを感じています。

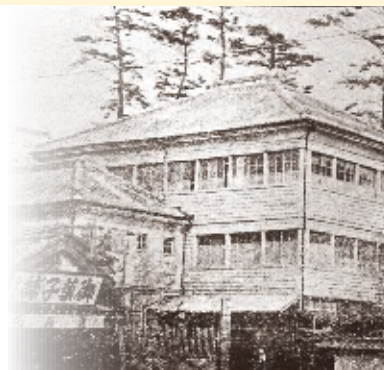
また大変嬉しい事に昨年4月に相模女子大学に書店と文具売場を出店させて頂きました。母校に自分の会社に関われるなんて、と非常に感激しています。コロナ禍でオンライン授業も多いと思いますが、登校したら是非足を運んで頂けたら嬉しいです。

在校生の皆さんの好きな事を沢山見付けられる大学生活になる事を祈っています。

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます

125th since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



相模女子大学の歴史は、1900年に西澤之助により日本女学校が設立されたことに始まります。それ以降、建学の精神「高潔善美～固きところをもって、やさしき行いをせよ～」のもと、我が国の女子教育のパイオニアとして多くの人材を社会に送り出してきました。

110周年時には、大学は「見つめる人になる。見つける人になる。」を教育スローガンに掲げましたが、「Sagami Vision 2020」の提示に合わせて学園全体の教育スローガンとなりました。

このスローガンに込められた思いは、自分たちの生活の足場をしっかりと「見つめ」、そこから新しい社会のあり方を「見つける」人を育てるというものです。建学の精神にいう高い人間性を希求する教養教育を現代的に表現しております。

2021年度マーガレット募金決算報告

マーガレット募金の収支について、下記のとおりご報告いたします。ご支援いただきました皆様へ厚くお礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

自2021年4月1日 至2022年3月31日

収入の部		
募金内容	件数	金額
学習活動支援	188	7,798,904円
キャンパス整備	53	1,453,832円
教育・研究活動支援	45	245,744円
さがっばジョーの活動支援	15	50,000円
指定なし	179	2,400,344円
計	480	11,948,824円
前年度繰越金	-	51,798,395円
合計	-	63,747,219円

支出の部	
募金内容	金額
学習活動支援	859,386円
キャンパス整備	2,185,700円
教育・研究活動支援	148,500円
特色ある学習活動支援	123,860円
計	3,317,446円
翌年度繰越金	60,429,773円
合計	63,747,219円

■活動内容

「学習活動支援事業」 募集（応募5件 採択2件）
継続（採択2件）
「キャンパス整備事業」 募集（応募5件 採択2件）

「教育・研究活動支援事業」 募集（応募1件 採択1件）
継続（採択1件）
「特色ある教育への支援」 申請（実施1件）

■寄付者ご芳名（敬称略、五十音順）※氏名等の公表についてご許可をいただいた方のみ掲載しております。

個人（計119名、うち匿名希望41名、未記入12名）

青山 紀美代	有田 雅一	五十嵐 絵理子	石塚 けい子	泉 邦寿	岩本 明子	梅林 博人	大塚 紀幸
大橋 敏子	奥貴 紀文	奥村 裕司	風間 誠史	片岡 朋子	加戸 伸明	金井 美恵子	金森 剛
神子 千鶴	上條 美和子	菊地 鈴子	木根淵 由美	小泉 京美	公平 沙緒里	児玉 小百合	後藤 和宏
小松崎 正一	小松 静子	小南 洋介	齋藤 淳志	齋藤 秀磨	佐久間 美澄	佐光 裕子	品川 利夫
品川 ゆかり	島田 恵美子	澄井 俊哉	高柳 誠	田杭 泰次郎	竹下 昌之	田中 百子	丹野 徳人
千葉 仁子	堤 ちはる	富樫 慎治	直井 秀樹	中島 和彦	中島 美千代	中野 沙織	仲野 寛
新平 鎮博	西澤 陽子	新田 マサ	長谷川 素美	速水 俊裕	原野 聡美	播磨 明宏	藤田 絹子
松井 清彦	水上 由紀	森田 直美	森平 直子	柳沢 香絵	山田 とし子	山根 美恵子	山本 美恵子
湧口 清隆							

法人および団体（計3件）

神奈川ファイリング株式会社
相模女子大学同窓会(翠葉会)

ご寄付のお願いとお申込方法について

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚園」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

募金内容

お申込方法 (個人の場合)

- ① お振込（郵便局または銀行窓口）
 - ② 郵送（現金書留）またはご持参
 - ③ 自動振替での継続
- 詳細につきましては、大学ホームページ（<https://www.sagami-wu.ac.jp/>）をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。
- 「マーガレット募金」お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 相模女子大学